

読むこと（文学的な文章）

○「カレーライス」では、登場人物の相互関係に着目し心情をとらえたり、自分と比較しながら読んだりした内容を読書カードにまとめる活動を行った。そして、重松清の短編集から共感できるものを選択して読み、読書カードにまとめ交流した。（読むこと イ・エ）

児童実態

場面ごとに読み進めていくのではなく、全体を重層的に読むことをカレーライスの学習時に初めて経験した。読みの視点に沿い、全文を対象にして何度も読んでいくことにとまどいは感じながらも、課題に対応するキーワードを見つけ、登場人物の視点に立ったり自分と重ねたりしながら、その心情を読もうとする児童の姿が見られた。しかし、短編集の中から作品を選ぶことができない児童や一人では話の展開をつかみにくい児童もいた。

次 時		学習活動	指導のポイント	単元を貫く言語活動との関連																				
単元を貫く言語活動「立松和平の『命』観について語り合おう」	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 「ことばのお宝帳」で文学的文章の読み方を振り返る。 学習課題「立松和平の『生き方』や『命』についての考えをさぐる」の設定をし、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 立松和平の「いのちシリーズ」を紹介する。 「海の命」「木のいのち」「街のいのち」「田んぼのいのち」「牧場のいのち」「川のいのち」「山のいのち」を個々で並行読書させる。 	<p>教材の特徴（教材6つの顔）</p> <p>①文章の種類や形態 この物語の出典はポプラ社の絵本「海のいのち」（立松和平作・伊勢栄子絵）である。</p> <p>②展開・構造 6つの場面で構成され、その場面毎に「太一」の成長に関わる登場人物の言葉や生き方が描かれている。その影響を受けながら、「太一」が海やそこに住まう魚や人間のあり方を深く見つめ、自分の生き方を決めていく話である。</p> <p>③表現・叙述 三人称限定視点で語られている物語であり、視点人物は「太一」である。海や「クエ」についての情景描写には、比喩や擬声語、色彩語が多く使われている。</p> <p>④人物像 「父」は自然に生かされていることを自覚し、海のめぐみに感謝しながら漁をしていた。「与吉じいさ」は毎日必要なだけ魚をとり、自然とともに生きていこうとする漁師である。「太一」は与吉じいさに「村一番の漁師」と言われながらもそのことに気付かないまま、父を越える漁師になる夢をもっていた。</p> <p>⑤作者 立松和平は「海は永遠だが、人の付き合い方によっては、生命力を弱めていく。」ということ、そして「太一」の成長を通し「海が育ててくれる」ということをこの物語の中に織り込めたいと思い創作した。また、生命感あふれる自然と人の生き死にとをからめた「いのちシリーズ」を刊行している。</p> <p>⑥意図 人間は特別な存在ではなく、自然の一部であり、自然により生かされている。</p>																			
	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 「海の命」を読み、場面や登場人物を整理し、あらすじを確認する。 	<p>重層的に読む第1段階</p> <ul style="list-style-type: none"> あらすじを押さえ、全体の構成を読ませる。 時・場所・登場人物・出来事、起・承・転・結 	<p>物語名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>物語名</th> <th>物語のあらすじ</th> <th>命観をさぐるためにみんなで話し合いたい課題（例）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木のいのち</td> <td>街の真ん中に立つケヤキの木。その木の命に励まされながら生きる千春の人生の話</td> <td>「そのけやきは千春に向かって、ここまでよくがんばったねと声をかけてくれたような気がしました。」⇒なぜ木なのにこんなに千春の心の中に存在するんだろう。</td> </tr> <tr> <td>山のいのち</td> <td>長く学校を休んでいた静一。山奥で祖父と暮らすうちに命の輝きを取り戻す話</td> <td>「生きているものは悲しいなあ。死ぬまでびくびくしてなあ。…」「山の中のものにはなにもむだがなく、ぜんぶがぐるぐるとまわっているんだよ」⇒むだがなくまわっているとはどういうことだろう。</td> </tr> <tr> <td>街のいのち</td> <td>母親の死に直面した少女が自然の息吹をあびて、悲しみから立ち直っていく話</td> <td>「命の気配」とはなんだろう？ 「瞳はうつむいて歩いた」が「瞳の心は少しずつ回復して」いったのはどうしてだろう。</td> </tr> <tr> <td>田んぼのいのち</td> <td>毎年1年生の気持ちで田んぼに取り組み、米を育てる夫婦の1年を通して自然の大きな力が描かれた話</td> <td>「稲に賢治さんと春子さんは手をあわせて祈ります」⇒ベテランなのにどうして祈るのか？ 「五十年間米をつくっている賢治さんも五十回しかつくってなくて、いつも1年生の気分です」⇒五十年も米を作っているのに1年生とはどういうことだろう。</td> </tr> <tr> <td>牧場のいのち</td> <td>売られていく牛、生まれくる牛。牧場を舞台に小学生の姉弟たちが牛たちの命と向き合う話</td> <td>最後のページを書いた作者の意図はなんだろう？</td> </tr> </tbody> </table>		物語名	物語のあらすじ	命観をさぐるためにみんなで話し合いたい課題（例）	木のいのち	街の真ん中に立つケヤキの木。その木の命に励まされながら生きる千春の人生の話	「そのけやきは千春に向かって、ここまでよくがんばったねと声をかけてくれたような気がしました。」⇒なぜ木なのにこんなに千春の心の中に存在するんだろう。	山のいのち	長く学校を休んでいた静一。山奥で祖父と暮らすうちに命の輝きを取り戻す話	「生きているものは悲しいなあ。死ぬまでびくびくしてなあ。…」「山の中のものにはなにもむだがなく、ぜんぶがぐるぐるとまわっているんだよ」⇒むだがなくまわっているとはどういうことだろう。	街のいのち	母親の死に直面した少女が自然の息吹をあびて、悲しみから立ち直っていく話	「命の気配」とはなんだろう？ 「瞳はうつむいて歩いた」が「瞳の心は少しずつ回復して」いったのはどうしてだろう。	田んぼのいのち	毎年1年生の気持ちで田んぼに取り組み、米を育てる夫婦の1年を通して自然の大きな力が描かれた話	「稲に賢治さんと春子さんは手をあわせて祈ります」⇒ベテランなのにどうして祈るのか？ 「五十年間米をつくっている賢治さんも五十回しかつくってなくて、いつも1年生の気分です」⇒五十年も米を作っているのに1年生とはどういうことだろう。	牧場のいのち	売られていく牛、生まれくる牛。牧場を舞台に小学生の姉弟たちが牛たちの命と向き合う話	最後のページを書いた作者の意図はなんだろう？
	物語名	物語のあらすじ	命観をさぐるためにみんなで話し合いたい課題（例）																					
	木のいのち	街の真ん中に立つケヤキの木。その木の命に励まされながら生きる千春の人生の話	「そのけやきは千春に向かって、ここまでよくがんばったねと声をかけてくれたような気がしました。」⇒なぜ木なのにこんなに千春の心の中に存在するんだろう。																					
	山のいのち	長く学校を休んでいた静一。山奥で祖父と暮らすうちに命の輝きを取り戻す話	「生きているものは悲しいなあ。死ぬまでびくびくしてなあ。…」「山の中のものにはなにもむだがなく、ぜんぶがぐるぐるとまわっているんだよ」⇒むだがなくまわっているとはどういうことだろう。																					
	街のいのち	母親の死に直面した少女が自然の息吹をあびて、悲しみから立ち直っていく話	「命の気配」とはなんだろう？ 「瞳はうつむいて歩いた」が「瞳の心は少しずつ回復して」いったのはどうしてだろう。																					
	田んぼのいのち	毎年1年生の気持ちで田んぼに取り組み、米を育てる夫婦の1年を通して自然の大きな力が描かれた話	「稲に賢治さんと春子さんは手をあわせて祈ります」⇒ベテランなのにどうして祈るのか？ 「五十年間米をつくっている賢治さんも五十回しかつくってなくて、いつも1年生の気分です」⇒五十年も米を作っているのに1年生とはどういうことだろう。																					
	牧場のいのち	売られていく牛、生まれくる牛。牧場を舞台に小学生の姉弟たちが牛たちの命と向き合う話	最後のページを書いた作者の意図はなんだろう？																					
	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 「海の命」に描かれている命観について読む。「父」「与吉じいさ」の生き方と「太一」の心の変化をとらえる。 	<p>重層的に読む第2段階</p> <ul style="list-style-type: none"> 命や生き方に関する表現に着目させる。 登場人物の言葉や行動 登場人物の変容 情景描写 	<p>※ ワークシート</p>																			
	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 立松和平の命に対する考えについて話し合う。 	<p>重層的に読む第3段階</p> <ul style="list-style-type: none"> “命”観に関わる表現についてみんなで話し合わせる。 	<p>※ ワークシート</p>																			
	5	5	<ul style="list-style-type: none"> 立松和平の命に対する考えについて「木のいのち」「牧場のいのち」をもとに話し合う。 	<p>重層的に読む第4段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ ワークシート1 全文を掲載したシートをもとに読ませる。 	<p>※ ワークシート</p>																			
	6	6	<ul style="list-style-type: none"> 立松和平の命に対する考えについて「山のいのち」をもとに話し合う。 	<p>重層的に読む第5段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ ワークシート1 全文を掲載したシートをもとに読ませる。 	<p>※ ワークシート</p>																			
7	7	<ul style="list-style-type: none"> 立松和平の命に対する考えについてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 立松和平の“命”観について800字程度にまとめさせる。 	<p>※ ワークシート</p>																				
8	8	<ul style="list-style-type: none"> 単元を振り返り、「ことばのお宝帳」へ学んだことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ことばのお宝帳」へ筆者の意図を読むためにはどうすればよいかまとめさせる。 	<p>※ ワークシート</p>																				
9	9			<p>※ ワークシート</p>																				
10	10			<p>※ ワークシート</p>																				
11	11			<p>※ ワークシート</p>																				
12	12			<p>※ ワークシート</p>																				

立松和平「いのちシリーズ」を並行読書

友達の考えを聞いて

立松和平の命観

「良一、生きていくものは悲しいなあ。死ぬまでびくびくしてなあ。こいつきつと怖いんだろなあ」

祖父はこういふなり、檻を水につけた。チイチ、チイチと心ぼそい声でなくイタチは、水に流れてゆるやかによどみ、この緑色の砂が見えた。魂「もう怖くなくなったなあ。魂がそのへんをふわふわとんでいるよ。ちっちゃい魂が」祖父が見たほうに、静一も目をやった。流れが岩にあたってしぶきがで、光ってはきえていた。それが魚や虫の魂かもしれない。

私の解釈

他の作品との共通点

や相違点

和平 命巻物「山のいのち」編 全文 名前

「ことばのお宝帳」へのポイント

- 書き手の意図を深く読むためには、シリーズを読むとよい。登場人物の言動に表れている。
- 立松和平の“命”観とはどんなものだろう。
- それに対する自分の考えを書こう。

油木蔵 宝

単元名

立松和平の“命”観について語り合おう

教材名

立松和平「海の命」

立松和平「いのちシリーズ」(くもん出版)「山のいのち」立松和平 作(ポプラ社)

授業者 高延 恵

1 日 時 平成25年10月22日(火) 5校時

2 学 年 6学年

3 単元の目標

○自分の経験や体験と重ねながら作品に描かれている登場人物のつながりや生き方を読もうとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

○登場人物の生き方や命に対する考え、情景描写など優れた叙述のよさについて自分の考えをまとめることができる。

(読む能力 エ)

○作品を読んで考えたことを発表し合い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。

(読む能力 オ)

○語感や言葉の使い方に関心を持ち語句相互の関係や物語の構成について理解することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(エ・オ・カ))

4 評価規準

国語への 関心・意欲態度	読む能力	言語に関する 知識・理解・技能
・登場人物の生き方に関心を持ち、その生き方について知ったり、考えたりすることで、自分の生き方を深めていこうとしている。	・登場人物の心情や場面、登場人物の相互関係について叙述を基に読み取り、その生き方や優れた叙述について自分の考えをまとめている。 ・「いのちシリーズ」を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。	・人物の心の動きを表す言葉の使い方の微妙な違いに着目している。 ・物語の構成を理解している。

5 単元を貫く言語活動 「立松和平の“命”観について語り合う」

単元を貫く言語活動として、「海の命」そして、「いのちシリーズ」を読み、立松和平のとらえる“命”観について語り合う活動を設定する。

立松和平の“命”観について語り合うためには、まず、作者のシリーズとして書かれている本を読み、命についての考えが表出している叙述を選択し、自分なりの解釈をもつことが必要である。そして、「語り合う」とは、個々でもち得た思いや考えを友達のと交流し、自分の意見と比較することにより、新たな視点からの気づきをもったり、自分の考えを変化させたりすることである。

この単元で学習することにより、作品の意図をより深く読み取るには、書き手に関連する本を重ねて読んだり書き手自身について調べたりするとよいことを学ぶことができる。

6 本時の目標

「山のいのち」に描かれている登場人物の生き方やものの見方・考え方を読み取ったり、他の作品と関連付けたりすることを通して、立松和平の“命”観についてとらえることができる。

7 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点（・）及び評価（○）
つかむ	<p>1 「山のいのち」の概要を確認する。 T：登場人物はだれですか。 場所はどこですか。</p> <p>2 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「山のいのち」を読み、立松和平の命に対する考えを深めよう。</p> </div> <p>T：誰に焦点をあてるとよいでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ、だれが、どこで、どうした等を確認することで、物語の概要をとらえさせる。 ・「祖父」に焦点をあてて読めばよいことをおさえる。
さぐる ねりあう	<p>3 一人で読み、課題に対応している叙述を選択する。</p> <p>4 読み取ったことを全体で交流する。 ・「生きているものは悲しいなあ」 一生懸命生きていても死と隣り合わせ、死ぬことを怖いと感じているだろう。 ・「魂がそのへんをふわふわとんでいるよ」 目には見えないけれどいろいろな命がある。 ・「たべるのは小さいのちだ。虫を魚がたべて、その魚をイタチや人間が食べる…」 「ぜんぶがぐるぐるとまわっているんだよ」 生きるには他の命を食べて生きなくてはいけない。 命はそういうつながりがある。</p> <p>T：他の作品と比べて気づきがありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「山のいのち」に描かれている命に対する考えが表れている叙述を抜き出させる。 ・叙述から読み取った命に対する考えを書き込ませる。 ・友達の考えとの共通点や相違点に着目して自分の読みを見直すよう助言する。 ・「海の命」「山のいのち」やその他の作品から読み取ったことや自分の体験等も根拠にしてよいことを確認する。
まとめる	<p>5 立松和平の命に対する考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「山のいのち」の祖父の考えから、立松和平は生きていくということは悲しくきびしいことだと思っていると感じました。また、「食べるのは小さいのちだ。山の中のものはなんにもむだがなく、ぜんぶがぐるぐるとまわっているんだよ」から命はつながっているということを言いたいんだと思いました。 これは「海の命」の父の考え「海のめぐみに感謝する」というのと似ていると思います。 だから、立松和平は、命はつながっているものだと言いたいと思います。</p> </div>	<p>○祖父の会話や行動の叙述とともに、「海の命」等他の作品から読み取ったことを含め、立松和平の命に対する考えをとらえている。 (発言・ノート)</p>